

老朽原発 うごかすな！ ニュース

第155号

発行・老朽原発うごかすな！
実行委員会

【連絡先】
090-1965-7102

11・30高浜集会に参加して①

この美しい海岸線に 原発の墓場を並べるか？

早朝に、山口県上関のひじきを煮て油揚げ寿司を包んで名古屋まで電車に乗った。
「11・30原発つづけるた

めの乾式貯蔵NO！全国集会 @高浜」に参加。

400人がプラカードアクション



お昼過ぎて福井到着まじか、車窓から見える海岸線が美しい。見惚れながら、この海岸線に原発の墓場をずらりと並べるのか？原子炉から出る廃棄物の処理は？そんな事が頭をめぐりました。作った揚げ寿司の中のひじきは上関のもの、以前山口の光輝く海で海底の小石が手に取るように鮮やかに見え、その透明さに歓声の声を思わずあげたのです。

京都に住む友人は上関から魚や海産物のおまかせパックを利用し、上関の豊かな海の季節の魚を鮮度抜群の状態で届けてもらっているようだ。鮮度抜群の魚や海産物でリ

ズナブルな価格で食事を提供する食堂をまかなっている。

そのような宝庫の上関に、中間貯蔵施設誘致計画が持ち上がった。原発の電気を利用してきたのは関西、それを肥溜めにあたる使用済み核燃料中間貯蔵施設を押し付けようとすることは断然許しがたい行為です。中国電力所有地周辺の海域は、生物多様性条約に基づき政府が国連に登録した海洋保護区です。

高浜に向かうバスの横の席には、「汚染水流すな！」の韓国からの李元栄さんとの行進を東京で一緒に私と同年代の女性Aさん。その時持っていた布製の自分でデザインした絵画ポスターを今回も持参。弟さんは大学卒業後中部電力に入社し、浜岡原発「放射線管理区域」に入る仕事もし、32歳という若さで、白血病でお亡くなりになった。防衛服を着用した弟さんの写真がある。下着、青、黄、赤の

順に着るとのこと。中電は白血病と原発とは因果関係は無いと言いつつとAさんはいっになく強い口調で言った。帰りのバス内では、仲間の方が持参された台湾の原発廃止の運動のビデオを見ました。原発反対運動の過程で8年も

獄中で闘っておられた！これまで、血と汗と涙の中で闘ったの今があることを知りました。集会、デモの準備も大変お疲れさまでした。私にとって大変意義深い日となった。(愛知県 カンファデ)

11・30高浜集会に参加して②

原発を延命させる乾式貯蔵 NO！ 悔しさと恐れなしには見られない

11月30日朝、高浜原発へ行く京都からのバスに、東京より参加しました。38名満席でスピーチでは「原発、あかんものはあかん！」という言葉が何度も出て、原発推



デモの第3グループ

進高市政権への抗議の声も聞かれました。高浜原発を臨む音海展望台には、京都からのもう一台、大阪、滋賀、兵庫、名古屋などからのバスやマイクローが次々と到着。幟や横断幕を持つ人々で溢れました。

原発ゲート前までのデモは、原発を延命させる乾式貯蔵NO！の意思表示であり、また同時に運転開始後51年目の高浜1号機の、定検後の今日からの再稼働への抗議でもありました。3・11以降、大飯、川内、伊方・・・と何度も経験させられた再稼働。目の前の巨大な原発が再び息を吹き返す光景はいつだって、悔しさと恐れなしには見られ

ない。この原発の炉内構造物の損傷の進みは関電でも認められていると聞けばなおさらに。

参加者には若い人の姿も見られて、また久しぶりに会えた各地の人たちの元気な姿も嬉しかったです。意思を同じくする人との繋がりは、希望であり励ましであるとあらためて思いました。

高浜町文化会館での集会では中島哲演さんや木原壮林さんのお話、全国からの報告があり、その後町内デモをしました。

家の前で、デモ隊に何度もありがとうと頭を下げられていた婦人の姿が心に残っています。

新潟の柏崎刈羽、北海道の



関西電力へ申し入れ

泊、知事の容認発言に、さらに全国的に原発危機が一層深まる昨今。久しぶりに原発現地に来て、反対の抗議の気持ちであらためて込み上げてきました。若狭の青葉山の紅葉

と遙か水平線まで続く海の碧さの美しさが、原発存在の理不尽さ、酷さを際立たせているように感じました。

(東京都 青山 晴江)

11・30高浜集会に参加して③

自然エネルギーの旗を高く掲げよう

このたびの「高浜集会」では、これまでになく、「原発から自然エネルギーへの転嫁」が強調されていたように感じた。20数年前から太陽光発電など自然エネルギーの活用を訴えてきた者として、「わが意を得たり」の思いである。

原発は人間の生活の場を奪い、子々孫々にわたる不安を残すが、自然エネルギーは事故がなく、廃棄物がなく、無限である。しかもタダであり、地球温暖化の主要原因である二酸化炭素の排出がない。まさに安心・安全である。自然に恵まれた日本は自然エネルギーの宝庫である。太陽光を中心に、風力、水力、波力、地熱など多様な方法で電気エネルギーが獲得できる。これを使

わない手はない。

しかし最近、大規模太陽光発電所(メガソーラー)の建設をめぐる各地で、自然破壊や景観の面から住民とのトラブルが発生している。この問題を解決する一つの方法と

して、原発を太陽光発電所に転換することがある。原発の広大な敷地にソーラーパネルを敷き詰めれば、原発ほどではないが、相当な量の電力が得られる。有利な点は送電線網や道路が整備されているから、自然破壊をすることがない。人が生活する地域とはかなり離れているので、住民の生活に影響することがない。住民の反対やトラブルもあるまい。建設費用は原発に比べてはるかに安い。さらにかなりの期間活用できるし、老朽化しても危険はない。廃棄するのには原発のように数兆円を要することもない。

ただこの提案は電力会社や政府が採用するまい。それはなぜか？自然エネルギーは原発ほど儲からないからである。原発は建設、廃棄に数兆円の莫大な経費を要する。その出どころは国民の懐に他ならないが、原発の甘い蜜に群がる関連大企業が手放すはずがない。武器を作る軍需産業と同様にこれほど儲かる事業はない。原発関連企業もまた「死の商人」に他ならない。

「自然エネルギー」の



音海展望台からデモが出発 (第1グループ)



出発前に説明 (音海展望台で)



高浜原発3, 4号機を前に

旗を高く掲げて、反原発のたたかいをさらに進めよう。

(社民党滋賀・顧問

下村 勉)